

情報連絡員だより

－令和2年9月の報告より－

一部で回復の兆しも、
先行き不透明感は拭えず

業種 / 景況天気図		概況
全	体	業種別の天気図が、食料品と機械・金属で「小雨」、建設業で「曇」と改善するなど、一部で回復の兆しがみられる。しかし、依然として新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全体的に厳しい状況が続く。7月より始まったG o T o トラベルの効果も限定的で、先行き不透明感を訴える声も多く、楽観はできない。
製 造 業	食料品	菓子は、催しの需要が出始め、観光地需要の持ち直しもあり、売上が前年並みに回復。パンは、駅やデパ地下の落ち込みが激しい一方、路面店やスーパー近くの店舗は比較的好調。製麺は、業務用の落ち込みが続き業況悪化。酒造は、好調な企業もあるが、全体の売上は大幅減。食肉は、豚熱の影響はみられず、業況安定。
	繊維・同製品	織物は、依然として先行き不透明な状況の中、展示会での新しい試みを模索。刺繍は、サンプルや量産の問い合わせが増えているが、全体的に状態は悪く、仕事量は前年比7～8割程度。繊維製品は、大手アパレルの不振に伴い業況が悪化する中、明るい話題として、医療用ガウンの生産が来年3月まで続くことが決定。
	窯業・土石製品	コンクリートブロックは、新型コロナの県内感染者増加に伴い、リモート会議など感染症対策を推進。生コンは、出荷が好調な一部山間地域以外は厳しい状況。砕石は、全体的な業況は好転しているが、地域によって骨材やダンプカー不足が生じている。砂利は、原石不足やプラント修理休転で生産が落ち込み、在庫減少。
	機械・金属	電機は、台風などの災害に備えるための自家用発電機が好調。自動車関連は、SUBARU関連が前年並みの売上に戻りつつある一方で、二次・三次下請は依然厳しい状況。また、業種によっては短納期・低コストを強いられる事業者もみられる。鍍金は、一時的に受注量が増加した企業もあるが、まだまだ先行き不透明。
	その他の製造業	木材は、販売単価の値下げのほか、荷動きがあるものの原木不足で対応できない状況。紙加工品は、自動車輸出関連や冠婚葬祭関連などで改善しつつあるが、前年より売上は減少。印刷は、新型コロナの影響が根強く、業況回復には時間がかかる見通し。ゴム製品は、新型コロナの影響で注文が取れず、稼働率が大幅悪化。
	非 製 造 業	卸売業
非 製 造 業	小売業	家電小売は、エアコン販売が一段落する中、コロナ禍で消費マインドは低下。生花小売は、イベントや冠婚葬祭の需要低迷が続く。商店街は、徐々に人通りが戻り、イベントに人が集まりつつあるが、業況は悪いまま。燃料小売は、販売量が緩やかな回復傾向。中古車オークションは、出品数は少ないが、成約率は上昇。
	サービス業	温泉旅館は、G o T o トラベルの効果から高級旅館は好調だが、宿泊人数の制限を行っているところも多く、全体としては前年の7割程度の入込に留まる。建築設計は、新型コロナの感染拡大により、先行きが見通せない状況に陥っている。大型車両の販売・整備は、観光バスの整備や部品販売の不調が響き、業況悪化。
	建設業	電気工事は、新型コロナ対策により経費が増大。鉄構は、小売店舗や観光、宿泊などの分野で建築計画の中止や延期が散見される。建設工事は、新型コロナ対策の影響で施工効率悪化、工期遅れが発生。解体工事は、年末に向けて受注がやや増加傾向。塗装工事は、工期の短い工事の減少が経費節約につながり、収益好転。
	運輸業	シルバーウィーク前後は荷物を運びきれない状況もみられたが、それ以外は輸送量の減少が続いており、全体の荷動きは低調となる。野菜関連は、7月の長雨の影響でレタスの出荷が例年より早くに終わり、空車が出ている状況。小口配送は、医薬品PETや引越は例年並みだが、スポット配送の依頼が激減し、業況悪化。